

一般財団法人 地域公共人材開発機構設立記念国際シンポジウム アンケートまとめ

◆本シンポジウムで最も印象に残った点は何ですか。

- ・多くの方の話を聴く中で、地域公共人材を認証するシステムが早急に確立され、認証を受けた人材が高いレベルでの公共活動を展開することを大きく期待しています。コンソーシアム京都が生まれた「京都」ならこの制度の実現は必ず成功すると確信しました。
- ・地域公共人材のねらいが、セクター間の流動化の促進であるということ。
- ・社会人の資格制度が公共人材開発に重要であること。
- ・大学と民間が協力して、公共人材養成に力を入れる時期に差しかかっていること。
→一般財団法人設立は記念すべきことです。
- ・パネルディスカッションで津村氏の「資格を与えるだけでなく、実践できる人材の育成を」という発言に同意です。
- ・素晴らしい実行力で実践に活かされている高崎経済大学の吉田総長の講演。成功例をもっと大きく、いろんなメディアでも今後の日本に必要なこととして **Promote** してほしい。
- ・官と民、中央と地方、教育の実践など、この分野に経験のない自分にも大変よくわかった。
- ・英国の事例：資格というものを導入すること、**Job** を広げることの大切さ。セミナーの主催者の意図がわかったと思います。
- ・吉田氏、白石氏の話が面白かった。パネリストも全員「真剣さ」が伝わってきました。このシンポはよかったと思います。
- ・パネルディスカッションでの議論、発言、基調講演での内容・発表が集約された感じももてた。認証システムのあるべき姿のイメージがわいた。
- ・「地域公共人材の育成」と「公共の場の創造」ということがセットで議論され、機構の役割に位置づけられようとしていることが良く分かりました。また、論点が深まったことも印象に残りました。
- ・地域公共人材の社会におけるあり方が少しわかったような気がしました。各セクターが評価軸とそれを活用するしくみを作っていくことが必要であるし、実際にできると感じました。
- ・パネルディスカッションで非常につつこんだ話を聞くことができました。感謝しています。
- ・四方市長の 3 期で市長を終わるという出处進退を明確にされているのを聞いて感銘を受けた。それは一歩二歩先を読み、次の図式が描かれている証左だと思う。日本人の今、欠けているところは、先を読むことが出来ず、次のポリシーを描けないことだと思う。

- ・高崎経済大、KES の報告はよかった。
- ・比較考察を正確にしようとされていたとは思いますが、日本の職業資格（制度）の特性が改めてはっきりしたと思う。EU や英と決定的に違うのは、（一般）教育資格のみが日本にあるという点です。職業資格へのアクセスという点で、日本は自己負担（受益者負担）が大きく、これが当然とされている。それはどう考えられますか。
- ・何か一つ職種を取り上げられて、説明された方がよかった。
- ・高崎経済大学の取り組み。
- ・資格だけでなく、その資格を持った人材が活躍できる場をつくることを併せて行うための有益な意見がフロアから出されたこと。
- ・履修証明制度に関連した話題が演者の方々から説明があったが、大学の社会的貢献、社会人の履修生の受け入れにとって、大変参考になった。特にアカデミーのディプロマとしての職能資格の互換性が課題であるという指摘が印象に残った。
- ・現実の地域に根ざした活きた人材の育成についてのさまざまな問題点について、産官学ならびに民について掘り下げた話の数々をお聞きできて、ありがとうございます。
- ・資格認証に加え、実践の場があることが大切であるということ。
- ・パネルでお話いただいた人々の話に新鮮さと共感を得ました。大変勉強になりました。ありがとうございます。地域に持ち帰り、参加にさせていただきたい。
- ・パネルディスカッションの議論がとりわけ印象深かった。次には、高崎経済大の話。

◆今後、地域公共人材開発機構に期待するものは何ですか。

- ・今から 20 数年前、初めて「環境監査」という言葉を聴き、これからの世の中が必要とするものに間違いない、そのような時代が到来するとワクワクしたことを思い出した。今では、ISO、KES は社会の中で定着している。地域公共人材開発機構の話を本日聴き、20 数年前と同じ期待感でワクワクしている自分がある。近い将来、世の中が必要性を認め、社会の中に定着することを夢見ながら着実に前進してほしい。私も努力したい。京都の標準化から始め、国は本認証がないと認められない公共人材というものを確立し、グローバルなシステムとなってほしい。
- ・NPO、NGO、社会起業の現場を無視しないで、進めていってほしいと思います。
- ・自治体・大企業は自ら人材育成を行ってきたが、公共人材育成につながっていないことから、この機構が連携の要となって、社会を支える人材を育てるプログラム提供・資格付与システムになれば、と期待しています。
- ・ご発言の中にもありましたが、人材育成の研修・研究にとどまらず、産官学民のネットワークを活用して雇用の創出や（中小）企業の活性化にしていきたい。
- ・地域公共人材開発機構のタイトルがわかりにくい。専門家が分からないので、是非簡素に

わかりやすい名前に。

- 実例などの紹介。Promotion が一番大切だと思う。
- 現状ではまだ期待できない。
- 津村氏がおっしゃっておられたように資格認証された人の活躍の場が保証できるようになっていただきたい。
- 地域をプロデュースできる総合的能力を持つ人材の養成を期待。まずは協働のコーディネート能力のある人材の育成。
- あまり理想的にならずに、各セクターに具体の「地域公共人材」と言われる人物を知ることが大切ではないかと思います。コンピテンシーを明確にして、これを増殖するべきではないかと思います。これは「知識」というより「知恵」や「徳」を対象にしていると思います。「教える」ことではなく「お世話」をするということではないか。
- 企業においては、従来の事業が行き詰まりを見せる中、社会問題を見極め、その中で企業の専門性をどう生かすか、という点で役に立てられると感じました。
- 「地域公共人材」の活躍できる仕組み作りをぜひお願いします。ぜひ実践のための資格に成長して行っていただきたいものです。
- 人材を育む、ということは明治維新以来百年の大計であった。終戦後、戦後民主主義という GHQ の押し付けのものが闊歩してきたが、橋下大阪府知事のように現状を打破していくことが必要であり、そのリーダーとしての手法を小・中・高・大学生ならびに日本人が観察して、検証している自体が勉学なり教訓になると思う。
- どれだけ個別の大学、個別の企業の利益追求を抑制して、社会化ができるのかが問われてきていると思う。
- 地域資格とは、地域特性を Key Stone にした資格なのか。地域の中で流通する資格なのか。意味が不分明。マニュアル化できるものなのかも。
- 資格制度より内容の充実。
- グッドプラクティス（もしくは、実践していこうとしている事例）について、情報発信、また分析検証のハブになればよいと思います。
- 職能制度が公共機関で有効に活用されるよう制度化の実現の推進役になっていただくことを期待しております。
- 本日、話に至らなかった大学における具体的な育成のシステムについて提言が待たれました。
- 資格認証+実践の場の提供（実践の支援）
- 富野先生や KES 津村さんが提言された地域コミュニケーションや活動の場の創出、さらには新川先生のソーシャルイノベーター育成に期待したい。
- 富野先生のおっしゃったこの分野の人材育成に、社会も含めコストの負担システムについても考えていきたい。
- ぜひ、全国各地へも活動状況を発信してほしい。

◆その他ご意見、ご感想などご自由にご記入ください。

- ・具体的なカリキュラムや認定制度の具体的なしくみを、提示・提案してくださる場と思ってきましたが、それではなかったようで、少し驚きました。上記のよう具体的な説明の場・機会がいつごろ行われるか、また告知・広報いただければ幸いです。
- ・そうそうたるメンバーがご出席されており、シンポジウムの実施に御苦労されたことと思います。また、このような機会を設けていただきたい。
- ・どういう活動をするのか。どういう人たちに興味をもってもらい、活動に参加してもらい、活動を享受してもらうのかがはっきり示せる、いわゆる“販売促進”“マーケティング”の表示がこれからほしいと思います。遠慮せず“Sales”してください。
- ・この機構の名前、目指すものがよく分らなかったが、富野氏のパネルセッションの冒頭の説明でよくわかりました。
- ・パネルについては、パネラーの方々、一人ひとりが信念と確信、実行力を持ってこられたのでとてもいい内容でした。ありがとうございます。
- ・“新しいこと”をはじめるとは大変ですが頑張ってください。
- ・大変よくわかりました。ありがとう。2時間半聞いて分かったのは、いいけれど2時間半かけないと分からない状況から立ちあがることを願います。
- ・「たたけよ さらば開かれん」ってことですか？
- ・今までの研究活動が実を結びつつあることを実感しました。今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。
- ・「教育」や「育成」をできると思わないことが大切ではないか。人材は発掘し、または発掘される仕組みづくり、その人材を支援する、その人材の存在するセクターや組織を支援する仕組みのお世話をすることが大切ではないか。
- ・有意義な議論をありがとうございました。
- ・このような場をまた設けていただきたいです。
- ・公共サービスの範囲、共というのが、分担の正当性。そこが不問にされていたように思う。それが大いに不満。
- ・地域人材開発の人材の中にはどういう人々が想定されているのか。
- ・立命の一連のシンポよりはまとまりがよかった。問題意識は感じ取れたということは言える。
- ・〇〇禅師の法に継ぐというように、人が人に伝えることの方がよいのではないか。
- ・難しい課題は多くあると思いますが、コツコツと実績を積み上げていけば、いずれ大きなうねりを生み、社会を変える機動力になるのではないかなと思いました。ただあれこれやろうとして焦点がぶれ、分散化しないような注意が必要なのではないでしょうか。
- ・地域公共人材の育成システムを形成する上で、関西の大学、産学界、公的機関の連携が京都で推進されることを期待し、また可能性を強く感じました。

- 良い機会をお作りいただき、龍谷大学に感謝します。
- ありがとうございました。有意義なシンポジウムでした。今後も皆で考える場の提供をよろしくお願いします。
- 研修の基礎的な部分はシステムチックに提供されるべきですが、研修者相互の学びあいを活かした創造的なカリキュラム開発もあればいい。そうありたい。
- もし、本日の講演記録やパネルディスカッションの議事録のようなものが作成されるのであれば、1部いただきたい。